



年の瀬に

今年も残り1ヶ月を切った。国公立大の推薦入試も一段落し、平成24年度センター試験もあと1ヶ月余りで、いよいよ受験シーズンの到来である。私自身は、昨年3年生の担任をしたことや、今年も1クラスだけ3年生の教科担任をしていることもあり、受験を間近に控えた生徒や保護者、先生方がどのような気持ちでおられるか、ある程度は想像がつく。3年生の諸君には(そして浪人生の諸君にも)心からエールを送りたい。体調に十分気をつけ、本番で最大限の力が発揮できるように、調整を図ってほしい。

高校卒業、次の進学先への受験は人生にとって大きな分岐点の1つであると思うが、私にとっては昭和63年がその年であった(歳がばれてしまうが、今さら隠すほどのものでもないだろう)。現在のセンター試験は当時はまだ「共通1次試験」と呼ばれていた。私の出身高校は都城で、受験会場が宮崎大学だったため、300名(?)ほどの大所帯でバスに分乗、宮崎市内のホテルに泊まりがけで受験に来た。宮大はちょうど移転の真っ最中で、ダンプやショベルカーがきて工事中であったことや、朝の食事の後にリボビタミンDが出て先生方から励まされたこと、前日の夜にホテルのテレビで見た「世界ふしぎ発見」の内容が翌日の試験に出ていたこと、国語の現代文の問題に出た「鶏頭」という花の名前を、にわたりの頭と勘違いして時間を食ってしまったことなど、十数年(?)も前のことが、ついこの前のことのように思い出される。数学もクラスで半数近くの生徒が満点だった(当時は満点のとりやすい科目だった)にも関わらず、何度も見落としはしたはずなのに、10点のところを2問まちがって、満点を逃したことも、印象に残っている。受験は、人生の中でも、それだけ強烈な印象として心に刻み込まれていくものなのだろうと思う。3年生の諸君も2年前の今頃は君たちと同じように、「まだまだ先のこと」とゆったりと構えていたに違いない。しかし、過ぎ去った時間を取り戻すことはできない。3年生が頑張っている様子を見守りつつも、2年後の自分の姿をイメージし、同じ気持ちで勉強に励もう。

ところで、私の好きな作家、東野圭吾の「使命と魂のリミット」の中に、「ぼんやり生きてちゃだめだぞ。一生懸命勉強して、他人のことを思いやって生きていけば、自ずといろいろなことがわかってくる。人間というのは、その人にしか果たせない使命というものを持っているものなんだ。誰もがそういうものを持って生まれてきているんだ。俺はそう思っているよ。」という、病床に伏している父親から娘への言葉がある。(主人公のその娘は、当時まだ中学生だったが、父親の言葉を胸に懸命に勉強し、心臓外科医になるのであるが…)小説の中の一文ではあるが、くじけそうな時に私はその言葉を思い出すことにしている。

1年学年主任(15HR担任) M

※ 明日の3・4限目は分野別教養講座が行われます。大学や専門学校の先生からの話を聞ける機会はなかなかありませんので、主体的に参加して、進路選択のヒントにしてほしいと思います。

週行事予定表(12/3~12/17)

月	日	曜	行事予定	課外	
12	3	土	1・2限土曜講座(第2週時間割)、3・4限分野別教養講座		8:10着席
	4	日			
	5	月		C	7:25着席
	6	火		C	7:25着席
	7	水	2年修学旅行(~11日)	C	7:25着席
	8	木		C	7:25着席
	9	金		C	7:25着席
	10	土			8:10着席
	11	日			
	12	月	2年代休日	A	7:25着席
	13	火	各種委員会	A	7:25着席
	14	水	学年集会	A	7:25着席
	15	木		A	7:25着席
	16	金		A	7:25着席
	17	土	土曜講座(第4週時間割)		